さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

イチゴ園 祖母の後継に

25歳・水上さん サラリーマンから転身

甲府市の小曲観光いちご組合に加盟する「観光苺山城園」で、水上裕介さん(25)が２代目として農園を継ぎ奮闘している。農園を始めた祖母石原博子さん(78)が手術のため農作業が難しくなったのを機に「長年のお客さんのためにやめるわけにはいかない」と、サラリーマンから転身。博子さんの教えを受けながら客を迎えていて、「喜んでもらえるのがやりがい」と話す。　〈杉原みずき〉

イチゴの手入れをする水上裕介さん(左)と石原博子さん　＝甲府市下今井町

山城園は、イチゴを栽培し出荷していた博子さんが組合設立に合わせて約30年前に始めた。裕介さんは昨年度から本格的に栽培に携わっていて、組合では25年ぶりの新規就農者となった。

裕介さんは、博子さんの娘である母の水上博美さん(55)に連れられ子どものころから園を手伝い、栽培から接客まで一通りの仕事を見よう見まねで覚えた。大学卒業後は一般企業に就職していた。

転機が訪れたのは2年前。博子さんが腰の手術を受けて農作業が困難になり、一家は園をどうするか決断を迫られる状況に。農業の大変さも肌で感じていたが、「継げるのは自分しかいない」と決意した。「ずっと来てくれているお客さんの顔を思い浮かべると、終わりにはできなかった」という。

裕介さんの決断に博子さんは、「うれしかった。頼もしい」と笑顔を見せる。手術前ほどは体を動かせないものの、一緒に農作業に精を出す。裕介さんは「パワフルなおばあちゃん」と博子さんを慕い、「まだまだ教えてもらいたいことがある」と話す。

同園は昔ながらの土耕栽培。土づくりに手間がかかるが、裕介さんは「その土地ならではの味が出る土での栽培にこだわっていきたい」と考えている。

宮崎県出身の常連客からもらったマンゴーのおいしさに魅了され、マンゴー栽培も始めた。気候変動も見据えた取り組みといい、常連客の案内で宮崎の農家を訪ねて研修。専用ハウスも設け、約130本を育てている。

ピーク時には15軒程度あった組合農家は、7軒に減少し経営者の高齢化も進む。裕介さんは「お客さんに喜んでもらえるように頑張って、地域の農業も盛り上げていけるといい」と話している。

甲府

三枝　大悟
杉原みずき

（2024 年 2 月 20 日付 山梨日日新聞 16 面）

問1 水上裕介さんが、「観光苺山城園」の2代目になったきっかけを答えてください。

.....

問2 イチゴ園では、どのような栽培方法を行っていますか。

.....

問3 水上さんは、イチゴ以外に何を何本栽培していますか。

.....を 約.....本栽培

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.